

庭園紹介



時は今なり桔梗の旗あげ
丹波 かめおか光秀物語

まきよりの里



人徳の光秀

里山への帰郷(キキョウ)の庭

光秀~心の庭~

亀岡盆地に紫武将が降り立つ!
さあ麒麟を探そう

天空の丹波石畳の庭

亀山の山紫水明

亀宝の丘園

3

4

2

6

8

7

1

入口

受付

凧亭

P

庭園内容

- 1 凧亭**
作庭者：特定非営利活動法人 亀岡・花と緑の会
- 2 人徳の光秀**
作庭者：京都府立農芸高等学校
- 3 里山への帰郷(キキョウ)の庭**
作庭者：亀岡市造園事業協同組合
- 4 光秀~心の庭~**
作庭者：亀岡市造園事業協同組合
- 5 亀岡盆地に紫武将が降り立つ!
さあ麒麟を探そう**
作庭者：公益財団法人 亀岡市都市緑花協会
- 6 亀宝の丘園**
作庭者：亀岡市造園事業協同組合
- 7 亀山の山紫水明**
作庭者：亀岡市造園事業協同組合
- 8 天空の丹波石畳の庭**
作庭者：亀岡市造園事業協同組合

1 凜亭

各地を名君として統治した「光秀公」を想い、清清しく凜とした力強い庭とした。

地元の竹林より竹を切り出し、敷石は破れ目地(馬踏み目地)とした。竹柵の中は白玉砂利を敷き詰め、桔梗、竹球、玉竜と最小限の器材で「教養人、武人、武将、統治者、愛妻家」を表す「光秀公」の“人となり”、心の小宇宙を作りあげた。

門をくぐり立ち止まり一呼吸おいて、心を静めてからお進みください。

3 里山への帰郷(キキョウ)の庭

亀岡市保津町から京都市右京区水尾に至る、保津川左岸の尾根沿いの山道です。亀岡から愛宕山へ登るルートのひとつです。この庭は、本能寺へ向かう時にこの道を通ったという「明智越」を表現しています。

4 光秀～心の庭～



明智光秀は亀山城から、現在「明智越」と呼ばれる山道を通り、京都を見下ろせる標高924mの愛宕山に登ります。光秀は、丹波を平定した後もたびたび参拝に訪れたとされる。本能寺への挙兵前、光秀は社前で何度もくじを引いたといわれており、この庭では、屏風の竹垣を覗き苦悩する心境を表現しました。

6 亀宝の丘園



その昔、荒塚にある亀の姿に似た小高い丘を「亀山」と呼んでいました。

明智光秀はこの地に城を築き、丹波平定の拠点としていたといわれています。

この庭は、光秀が太平の世を夢見て奔走した舞台である亀岡の原風景をイメージし、亀山の周囲には愛宕山や牛松山などの山々を配し、それらを取り巻く霧の海を白砂で表現しました。

2 人徳の光秀

明智光秀の一生を「人徳と文化」に着目し作庭しました。飛石は、光秀の歩んだ道を表しています。最初のキキョウの家紋の張石は光秀の誕生を示し、円形の飛石は、織田信長に仕えた人生の転機を表しています。庭園内中央にあるキキョウの家紋の張石は運命の分岐点を表す踏分石です。左に進むと、中国方面軍の羽柴秀吉がいるところに援軍として進んだ光秀が引き返し、本能寺に向かったといわれる戻り岩を表現しました。石組はこれまで仕えた主君を表し、石組の間にあるサツキツツジは「時は今 雨が下しるサツキかな」という本能寺の変を起こす前に愛宕山で開催された連歌会で歌った歌を表現しています。鉄砲垣は、光秀が鉄砲の名手ということから連想しました。キキョウの家紋を模った花壇は、正室の熙子や娘の玉子(細川ガラシャ)などの家族や家臣、領民に注いだ愛を表しています。また、キキョウの花壇は、激動の時代を生き掴み取った天下をわずかな間しか掴めず、こぼれ落ちていった儚い光秀を表現しています。

5 亀岡盆地に紫武将が降り立つ! さあ麒麟を探そう



—『小盆地宇宙』亀岡盆地を表現—

『保津川』に代表される水辺空間

四方の山並みや市街地に咲き誇る亀岡市の花『つつじ』

豊かな自然が故に、幾多の災害を乗り越えてきた防災・減災の象徴『奇跡のアジサイ』

そして文化薫る『ききょう』

これらの自然資源が織りなす小宇宙を感じていただければ幸いです。

7 亀山の山紫水明

天正3年(1575年)、丹波平定を開始した明智光秀は、丹波亀山城主として、城と城下町の基礎を築きました。光秀による亀山城の築城は、近世亀山の発展の基礎となりました。

現在における亀岡のまちづくりのルーツをこの庭で表現しています。

8 天空の丹波石畳の庭

丹波亀山城を築城した光秀公は、城下町を整備します。この庭では、城下町を石畳で表現しています。

現在でも、旧城下町一帯には切妻や京格子の町家が残り、その面影を感じることができます。